D 146　夫の服装に関する妻の意識調査　（第１報）

武庫川女大家政　林　泰子　小原怜子
○中尾時枝　二階堂宏子

目的　我が国の経済発展に伴い、ものの豊かな時代を迎え、多様化する衣生活の中で、最近では男性も女性も服装やファッションに対する関心が非常に高くなってきている。
また、家族の在り方、特に夫婦の在り方は、人生80年時代の中で重要な問題であると考えられる。そこで本研究は、日常の被服行動の中から、衣服が夫婦間にどのようなかかわりを持っているのかを、妻の夫に対する服装への心配りを通して、その様相を探ってみることを目的とした。

方法　調査は、1988年12月から1989年5月にかけて、主に近畿圏に居住する40歳から58歳（平均年齢46.5歳）までの主婦287名（回収率約75%、有効回答率約90%）を対象に、配票留置法による質問紙調査を行った。主な質問項目は、基本属性9項目、購買行動12項目、着装行動11項目、夫の外観27項目、夫婦の性格各26項目、生活行動30項目である。集計方法および分析方法は、単純集計、ＳＤ法、因子分析などを用いた。

結果　今回の対象者は、行動的、寛容的、情緒的、堅実的、軽快的といった５つの性格因子を持ったグループで、妻の購買行動における構造は、高品質志向性、安定性、経済性、計画性の４因子で表された。夫の着装行動においては、表現性、主張性の２因子で、第３因子以下は単純に因子構造をとらえる項目とならなかった。尚、この年代の妻達は、夫の服装について概ね、責任を持っている傾向がみられた。